

女性形文末形式日本語の「わ」とタイ語の「kha」の対照

イソ アパコーン

1. はじめに

日本語の終助詞の中で、話し手が女性であることを聞き手に伝える形式といえば、「わ」が代表的である。タイ語にも「わ」のように、話し手が女性であることを表す文末辞がある。それは「kha」という文末辞である。両者の共通点は、文末に含まれることばで、女性が使う、つまり、「女性ことば」という点である。

ここでは、文学作品の原文と翻訳文の「わ」と「kha」の使用法を比較し、特に家庭内の言葉遣いに注目し、両者の共通点と相違点を見出したい。

2. 「わ」と「kha」の基本的性格

2.1. 日本語の場合 — 「わ」

まず、一般的な辞書における「わ」の用法をみてみよう。

「わ」とは(終助)〔文末に用いられた係助詞「は」からの転。中世末記以降の語〕活用語の終止形に接続する。(女性用語として)話し手の主張や決意を、表現をやわらげて軽く言い表す。「おもしろい—ね」「あら、困った—」「別のやり方の方がいいと思う—」(省略)

松村明編(2006)『大辞林 第二版』三省堂

以上のように、文末の「わ」は、話し手である女性が、聞き手に対して表現を和らげ、「親和性」を表す際に、使用される傾向があることがわかる。また、女性の「わ」の使用は伝統的な女らしさの象徴でもあると思われる。

続いて、「わ」の実際の使用傾向を調べた山路(2006)の研究をみてみよう。山路(2006)は、現代小説作品を中心として「わ」の使用について調べた。調査の結果、現在の「わ」のイメージは、「女性らしいことば使い」というよりも「年配の女性らしいことば使い」に変化したことを示した。その根拠として、20-30年代の若年層の女性作家が、若い女性の登場人物(娘)の台詞には「わ」を殆ど使用せず、年上の女性の登場人物(母親)の台詞には「わ」をよく使用していることを挙げている。

さらに、「わ」の機能が「親和性を表わす」ことから「強気な態度を表わす」機能に変化したことを述べ

ている。例えば、「わ」を一貫して使用していない登場人物が、強い調子で反論している場合や、自分が相手より上である態度を示したり、高飛車な態度をとったりするときに「わ」を使用していることを示した。また、こうした使い分けは、若年層の女性作家に多く見られると述べた。

2.2. タイ語の場合 — 「kha」

タイ語の日常会話において、「kha」は、先生や上司など尊敬している相手に対して、敬意や謙虚な態度を表す場合に用いられる。また、初対面や親しくない相手に対しても、丁寧さを表わすための文末辞として、「kha」は一般的に使用される。一方、近い人間関係の相手、つまり、長い間知り合って親しくなった相手には「kha」は使用されなくなる傾向にある。もちろん、親しい間柄であっても「kha」を使用することは可能であるが、その場合、「kha」を一貫して使用している女性は、おとなしい、品の良い、教育されている、都会の女性といったイメージが与えられる。一方、地方に住んでいる村の女性には、こうした「kha」の一貫した使用は似合わない。

なお、「kha」と対になる語として男性が使用する文末辞の「khrab」があるが、「khrab」と「kha」の違いは、使い手の性が異なるだけで、その他の用法は全く同様である。

3. データについて

原作がタイ語で、日本語に翻訳された作品として、次の2冊を用いた。

- ・ Suwanni Sukhontha (1971) 『Kha Chw Kaan』 … 社会問題テーマにした小説 (岩城雄次郎訳『その名はカーン』1998年翻訳)
- ・ Khampoon Boontawee (1976) 『Luk Isan』 … ドキュメンタリー小説 (星野龍夫訳『東北のタイの子』2006年翻訳)

原作が日本語で、タイ語に翻訳された作品として、次を用いた。

- ・ 東野圭吾 (1998) 『パラレルワールド・ラブストーリー』 … 長編ミステリー小説 (Bandit Praditanuwon 訳『Raknailokpisawong』2006年翻訳)

4. 考察

4.1. 話し手のイメージと「kha」の使用について

作品の中から実例をみてみよう。会話の場面は主人公の女性がどのような結婚式にしたいかを婚約者に言った場面である。

- (1) chan yaak sanuk yuukab phuan kha
私 したい 楽しい 一緒 友達 文末辞
(意識) 私は友達と楽しくしていきたい。
(『Khau Chww Kaan』より)

ここでは、文末に「kha」が付けられたことによって、話し手の性別が明らかになり、表現の丁寧さが印象付けられている。また、話し手は婚約者である聞き手を尊敬した上で、控えめな態度をとっているニュアンスも感じられる。他の発話においても、この主人公は「kha」を一貫して使用し、都会の大学を卒業した綺麗で女性らしいというイメージと「kha」の使用は一致している。

次の例はタイの地方を舞台にした作品で、登場人物は地方に住んでいる家族の母親とお店のベトナム人である。会話の場面は、母親が初対面のベトナム人に鶏のスープを食べようと誘われた場面である。

- (2) ベトナム人：
nii tomkai na / maa kin daay kan
これ 鶏スープ(文末辞)/ 来る 食べる 一緒に
(意識) これは鶏スープだ。一緒に食べに来い。
母親：
mai kin / chan kin leew
否定辞 食べる / 私 食べる 完了
(意識) 食べない。私はもう食べた。
(『Luk Isan』より)

この場合では二人は初対面であるので、「mai kin」(食べない)の後ろに「kha」を付けることは可能である。だが実際は、「kha」は付けられていない。それは、この作品の舞台が、都会から離れているタイの東北部であるため、「kha」を付けられないことが、親しみのある、素朴な田舎の生活を描写するのに適していたからだろう。

4.2. 「わ」と「kha」の家庭内の使用に注目して

続いて、「kha」と「わ」について、家庭内の使用をみてみよう。

「kha」の使用については、家庭内では殆ど使われないという傾向がある。家族という親密な関係を持つ

ている人々の間で、丁寧さを表わす「kha」の使用は、距離感を与えてしまうからであろう。親子の間で「kha」の使用は全くみられないとは言えないが、その場合は、教育された上品な家族のイメージがもたれる。また、「わ」は、現在、若年層では殆ど使用されていないと言われる。家庭内の会話において、母親が家族のほかのメンバーに対して使用するとしても、子どもの使用はもはや稀であろう。

以上より、「kha」と「わ」の共通点として、家庭内の使用が殆ど見られていないことが挙げられる。しかし、不使用の理由は若干異なる。

まず、「kha」は、丁寧さを表わす機能があることから、家庭という親密度の高い場面での使用が相応しくなく、その点が大きな理由となっている。この「kha」の機能については、現在までに大きな変化はみられない。

一方、日本語においては、「わ」そのものの機能の変化が、「わ」の不使用に大きな影響を与えている。かつては、丁寧さで女性らしい優美な表現といった印象を伴っていた「わ」が、「強気」を表す表現へと変化したことが、家庭内での使いにくさにつながっているのである。そのため、家族間の会話では、特別な状況、例えば、言い争っている場面などでないと使われない。また、「わ」については、年配の女性は使用するというイメージがあるが、実際には一般の家庭で母親などの年上の女性によっても、殆ど使われていないと言われており、家庭内における「わ」の出現は、今後ますます少なくなっていくことだろう。

4.3. 性役割語としての終助詞

國仲(2007)は、性役割語の使用は、全体的には薄れていく傾向にあると指摘した。また、現代の若者は、話し手の性を示す性役割語の使用に「現代的でない」という印象をもっており、話し手の性を表す終助詞の使用を避ける傾向にあることを述べた。

しかし、タイ語における性役割語「khrab, kha」は、現在でも世代を問わず一般的に使われており、使用頻度が低くなる傾向はない。それは、タイ語の文末辞「khrab, kha」が、終助詞「わ」と異なり、性を強調するというよりも、丁寧さを表現するために用いられる傾向にあるからであろう。

5. おわりに

原作が日本語で、タイ語に翻訳された小説『パラレルワールド・ラブストーリー』について、日タイの表現を比較してみたところ、女性主人公が恋人との会話で用いた「わ」は、「kha」で訳されることが多かつ

た。終助詞「わ」の持つ女性らしさを表現する場合には、「kha」が適当であると考えられているからであろう。しかし、実際は、「kha」は丁寧さと関連するため、男性文末辞「khrab」にしろ、女性文末辞「kha」にしろ、筆者はこれらに相当する日本語は「です・ます」であると考え。そのため、翻訳本で「khrab」あるいは「kha」と書かれている場合、たとえ常体での会話であっても、丁寧体で話しているような印象を受けてしまうかもしれない。ここに、一見、似ていると思われる日本語の終助詞とタイ語の文末辞の相違が反映されている。

今後は、日本語の終助詞とタイ語の文末辞につい

て、実際の会話を用いた分析を進める。また、他の終助詞・文末辞も分析対象として拡げることで、体系的な対照研究を行いたい。

参考文献

- 國仲瞳 (2007) 「男性的・女性的終助詞が対人印象や対人魅力に及ぼす影響」『日本社会心理学会第49回大会 発表論文集 (口頭発表)』日本社会心理学会
- 山路奈保子 (2006) 「小説における女性形終助詞「わ」の使用」『日本語とジェンダー』6 日本語ジェンダー学会
- Noss, Richard B. (1964) *Thai Reference Grammar*. Foreign Service Institute, Washington DC.